

敬老について

田谷 高崎壽郎



アフリカでは、「老人を一人失うことは、一つの図書館が焼失するのと同じだ」といって、老人が逝くのを大變悼むそうです。それはお年寄りの豊富な経験や知識を心から惜しんでいるからだと思えます。

以前は、「当たらぬものは何か」といえば、「天気予報」といっていましたが今頃はどうかでしょう。

気象衛生ひまわり五号のお陰で、最近によく当たります。それは、我が国の天候は西から東へ移っていきませんが、中国大陸の雲の動きが手に取るようにわかるようになったからです。子どもでも、テレビの気象情報や雲や気圧の配置図から晴れになるとか雨が近いとかいっています。

では、テレビや新聞などに頼らず、雲や風の動きやまわりの様子などから天気の子測ができるでしょうか。案外難しいと思います。  
・朝東の空が焼けると雨  
・夕焼けだと天気(晴)  
・朝トンビにかさを持て、午後トンビは天気

子供に学ぶ

坪見博文

私は深町に住んで二十四年になります。昭和五十九年五月二十一日、長男が家を出して町内の皆様をはじめ多くの方に大変お世話になりました。

その時から私の人生は変わりました。今思うと、その時から子供にたくさんのお話を教えられる気がします。

子供が親を育てることを知ったのです。「負うた子に教えられ」「子を持って知る親の恩」「女は弱わしされど母は強よし」など、子は親の鏡です。子供を叱る事は多くても褒めることの少ない私でした。

今、長男も二歳の男の子の父親になり、その子からたくさんのお話を聞いています。私も今や子供を褒めることが多くなったように感じます。

蛙がなくなると雨が降る  
猫が顔を洗ったり、耳の後へ手を廻したりすると雨が近い。  
・ブトが沢山飛ぶと天気は下り坂  
・飛行機雲が大きく広がる  
と雨が近い  
・村上山に霧が残ればまだ雨が降る  
・雷が鳴ると梅雨があける

これらは、お年寄りから今までに私がきいてきた天候に関するものですが、まだまだあると思います。これが、以外によく当たるのです。永年の経験を通過しての生活の知恵というものでしょうか。

★ 老人生てんや

昨年、初年度の一年間、老人大学囲碁クラブは私にとって、居心地のよい所だった。それは私が所属する「D」クラスで比較的強かったからだ。先生の手ほどきもそこそこ、後は気分をわくわくさせながら三番ぐらい勝負するのだ。

秋は学園祭で優勝の楯を頂くし、同好会で清酒の賞を貰った。そもそも幸運だったことのおこりはこうだ。当時我々くらいの若輩者は棋力に対し、資格なんてものは無縁のものだった。だが一旦組織の中に組み込まれるとそうはいかず、かなり厳しい番付けが必要だったらしい。その番付け評価が個人申告制度だったからいけなかった。多少の謙遜の気持ちもあってか低目にしたのかもしれない。後で判ったのだが、私を除く数人の者もそうだったらしい。

勝率を上げて私ばかり気分をよくしているのも気分がひけるので、おのずと同クラスの特定の比較的「豪」の者に目をつけてファイトす。

家庭円満は子供を育てる大切な土壌だと思えます。

お年寄りの知識・経験・技術は、貴重な文化であり財産です。何事にも「古い古い」「時代が違う」「科学的根拠がない」などと一方的にいわないで、老人のことは受け入れる度量が大切です。

これも敬老の一つだと思います。

しかし、その成り行きはリーグ形式をそっちのけにしたようで、運営委員の気分を損ねたに違いない。期末には先生の判定審査を受けて「B」クラスに昇格させられた。

私と同様に昇格した者が数人あった。今年から新入生は先生の資格審査を受けて格付けされることになった。

又、一方対戦相手を選定者に片寄せせず、平均に相手を選べるように運営当局

側が指定する

★ わんや

齋藤哲三

思った。これで公私共にすっきりするだろうが、これからずっとこんな手間暇がかかることが、一々当局の方で可能なのだろうか。何はともあれその方針で今年一回目の始業となった。

しかし案の定、発案通りにはいかなかった。級長さんが「皆さんの良識に従って相手を公平に選んでほしい」と言渡された。私は内心(それみたことか)と思っ

う片方、がっかりして複雑な気持ちであった。ところが、次の第二日目

に私にとって、目を見張るようなことがあった。どなたの発案だったのか、いとも簡単に即座に組合わせができるようになったことだ。それは茶筒のようなものを組合せて各人を名記し、両手でぐるりとひねると即座に組合せが出てくるのだ。私はこの事を含めて、このような運営当局の当初からの適切な指示や、処置に舌を巻いて感心した次第である。

私は、過去半生を振り返ってみたい。様々な問題に遭遇したけれども、久しくこの快刀乱麻のような問題解決さまを見たことがなかった。どやしつけもいびりつ

けもなく、まさに天の采配と云うべきである。もしあの頃の優等生諸君が、かくの如き天の采配を素直に受け入れ、指示していたならば彼の悪名高きバブルとその後遺症はなかったろうに。ともあれこの件に関して

は「大山鳴動しかけても世は総てことも無し」と言いたいところだ。見よ老人達の泉の如く湧き出るファイトの目の輝きを、まさにこの世の楽園にあり、である。

だが待てよ、感心ばかりしてよい場合か、われに返ってB組に格上げされた己は一体、今までのように勝率を上げることができているのか。優勝の楯を頂いて又い、気分になれるのか。勉強、勉強。だが草も苧らにやあならんし、大根の種もまかにやならんし、いやはや。てんやわんやの忙しさである。



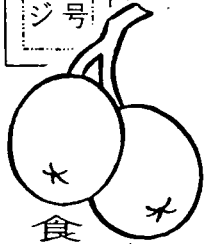
規制緩和と過保護が一種の流行語となった。日本も生産者保護から消費者保護に確実に変わりつつある。独禁法という抜かざる宝刀も、最近すこしばかりその輝きを拝めるようになってきた。外国の主要都市に比べ

た、日本の物価は1.5〜2倍高か。これは議論のあること、思うが、規制の下での保護が大きなウエイトを占めていることは間違いない。しかし保護をうける側に展望と決断力がなければみじめな結果となる。エネルギーの将来が読めなかった石炭産業は自滅した。我々農民も目の減反保障ばかりに目を向けず、広い視野で農業のあり方を考えたい。今消費者から、食料の自給と生産コストの説明を求められている。回答や如何に。今の子供は過保護だとよく言われる。我々の時代は間違いなく「放し飼いの時代」であった。こゝにも時世の変化が読みとれる。……さて?



ふかまちのまど

第一七号  
増ページ



食生活考

石井良雄

町内各種団体行事予定

行事報告

★盆行事

八月十五日、午後七時から午後十時まで小学校グラウンドを中心に行ないました。今年は戦後五十年の節目にあたりますので明治以降の戦没者等、昨年八月以降の病没者等の法要を行ないました。対象者は戦没者三十九柱、病没者八名の皆様でした。

★その他報告

県道尾道・三原線太郎谷バイパス開通式  
八月二十九日午前十時半から、三原市主催で行なわれました。式典終了後、白バイ先導で走り初めがありました。

- 一般行事は、
- ・太鼓踊り
- ・カラオケ
- ・手踊り
- ・夜店
- ・くじ引き(特等・テレビ)

★グレートボール

グラウンドゴルフに参加  
八月二十五日午前九時から、市民球場一帯で行なわれました。

年・月	世帯数	人	口	深町の世帯・人口動態
H5・7	287	896	6	
H6・7	299	909	9	
H7・4	309	944	4	
H7・5	311	954	4	
H7・7	312	965	5	

一、食は豊かになつたけど、季節の物と地場の物、それが一番良いのです。安くてうまい旬の物、同じ大気と水と土、命が通う地場野菜。

二、保存食やら味付にかかせぬ塩は、はばかれ、甘い間食、飲物に、増える体重、糖尿病、抵抗はへるばかり。脛の痛みがふえてゆく。

三、白い米なら粕でしよう。胚芽をもった玄米は、まくと芽が出るお米です。残念ながら値が高い。胚芽米でも食べるしか、自然農法出来ないか。

四、食事は古来腹八分御飯一口四十回かんでごらんよ著おいて。次は野菜をかむのです。飯采交互別々にくせがつくまで著おいて。著へ

★尚寿会

▼JA三原年金受給者ゲ

▼トボール大会9/6

▼信用金庫年金受給者ゲ

▼トボール大会9/12

★女性会

▼親睦会・上9/1・中9/2・下9/22

▼敬老会9/15。

★消防団

▼国体警備リハーサル

▼消防団訓練。

★こども会

▼こどもソフトボール大会、和田沖9/15

★小学校

▼PTA役員会・深町各種団体長会議9/7

▼運動会準備(福祉部)9/16

★幼稚園

▼運動会・小9/16

★町内会関係

▼幼稚園栗ひろい9/8

▼上 遊歩道管理作業。

▼下 役員会

▼町民運動会9/23(午後)

